

令和 7 年度

# 事業報告書

Annual Report



地域水産業共創センター  
Regional Fisheries Co-Creation Center



### 目次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 巻頭言 .....                       | 2  |
| 地域水産業共創センターの概要と主なミッション .....    | 3  |
| 1. 産学官連携事業企画・運営の支援 .....        | 4  |
| 1.1 競争的資金獲得                     |    |
| 1.2 函館マリカルチャープロジェクトの研究開発支援      |    |
| 1.3 その他の支援                      |    |
| 2. 研究シーズの把握・発信 .....            | 13 |
| 2.1 教員インタビューによる研究シーズの把握         |    |
| 2.2 教員インタビュー映像コンテンツの制作          |    |
| 2.3 LASBOS システムの利活用による発信        |    |
| 2.4 産学・地域協働コーディネート業務実績          |    |
| 3. 地域連携に向けた活動 .....             | 16 |
| 3.1 地域懇話会の実施                    |    |
| 3.2 自治体との連携                     |    |
| 3.3 自治体訪問・ニーズの発掘                |    |
| 4. 学術コンサル・共同研究・寄附金等に繋げる活動 ..... | 19 |
| 4.1 企業訪問、ニーズの発掘                 |    |
| 4.2 企業との連携                      |    |
| 4.3 外部提供資金による共創教育(インターンシップ等)    |    |
| 5. CREEN 人材育成プログラムの企画・運営 .....  | 21 |
| 5.1 CREEN 人材育成カリキュラム            |    |
| 5.2 函館をもっと良いまちに！プロジェクト          |    |
| 5.3 小中高生への支援                    |    |
| 5.4 LASBOS との連携                 |    |
| 5.5 その他                         |    |
| 6. その他の活動 .....                 | 32 |
| 6.1 産学・地域協働推進機構及び統合 URA 本部との連携  |    |
| 6.2 産学連携学会第23回大会函館大会開催          |    |
| 6.3 キングサーモン試食会                  |    |
| 6.4 GX・AI/洋上風力人材育成カリキュラム事業      |    |
| 6.5 ホームページ掲載実績、報道実績             |    |



北海道大学 地域水産業共創センター（以下、共創センター）は、北海道大学大学院水産科学研究院と地域の産学官金労言協働を推進し、その研究開発力・人材育成力を活かした社会・地域の振興を目的として、北海道大学函館キャンパスに設置されました（設置日：令和 4 年 10 月 1 日）。

共創センターは、大学と社会・地域をつなげる知・情報・人材のハブ機能（個々の企業・自治体関係者・研究者・学生・市民が蜘蛛の巣のように相互に結びつくイメージ）を担い、ワンストップ窓口となることを目標とし、地域振興に必要な 3 つの視点「内発」「総合」「革新」を大切にして、地域の様々な関係者の皆様と共に歩んでいます。「内発」とは地域に住む方々の意志で物事がはじまること、「総合」とは一つのことだけをおこなうのではなくそれを核として多様な展開を図ること、「革新」とは従来とは異なる新しいことをおこなうことです。

例えば、函館市では令和 4 年度から「函館マリカルチャープロジェクト」に取り組んでおり、北海道大学をはじめとする地域の高等教育機関や公設試験研究機関が協働してキングサーモンやマコンブの完全養殖に挑戦する研究開発（革新）が進められています。今後は、地域に住まう皆様とともに（内発）、新技術により生産されるサーモンやマコンブを飲食業や観光業などに広く活用し（総合）、社会実装することを目指しています。共創センターも、このプロジェクトの研究開発や、新しい産業を生み出し育てていくための地域の人材育成にも携わり、支援しております。

本報告書は、令和 7 年度の共創センターの活動記録です。今後も多種多様な分野で活動する方々を結びつける機会を創出するとともに、情報を発信し、異分野交流の「ハブ」機能として活動すべく、スタッフ一同奮励努力してまいります。

是非、お力添えのほどお願いいたします。



北海道大学 大学院水産科学研究院 地域水産業共創センター センター長

都下靖彰



## 地域水産業共創センターの概要と主なミッション



共創センターは、北海道大学が、函館・道南地域において産学官金連携による社会・地域の課題解決、および新しい価値の共創に取り組み、知の拠点・シンクタンクとして地域振興へ貢献するために設置された。

北海道大学の研究開発力、人材育成力および地域の文化的資源・自然資源等の「地域の強み」を活かした産学官金労言協働を推進し、産業の発展とイノベーション創出による地域振興につながる持続可能なシステムを構築するとともに、これからの地域社会を支える人材を育成していくことを目指す。

そのために大学と社会(企業－研究者、企業－学生、企業－企業、企業－自治体、自治体－研究者、自治体－学生、学生－学生など)をつなげる産学官連携の実践の場となり、地域の知・情報・人材のハブ機能を担っていくことを目標にしている。



### 主なミッション

- ①教育、研究開発、社会連携をコーディネート
- ②地域・企業等のワンストップ窓口
- ③教育研究活動をサポート

### 知の拠点・地域のシンクタンク

#### 地域水産業共創センター業務



産学官連携事業企画・運営の支援



GREEN人材育成プログラムの企画・運営



学術コンサル・共同研究・寄附金等に繋げる活動



地域連携に向けた活動



研究シーズの把握・発信



その他の活動



# 1.産学官連携事業企画・運営の支援

産学官連携事業の企画運営の支援等として、他大学や団体等からの学校訪問企画の受入れやイベントへの参画のほか、競争的資金の申請支援や内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」による「函館マリカルチャープロジェクト」における研究開発支援を行った。

特に同プロジェクトのうち、人材育成に関わる事業については、共創センターの重要な活動の一つと考え、「CREEN 人材育成プログラム」を業務の 5 項目の柱の一つとして位置づけている。(P. 21 以降参照)

## 1.1 競争的資金獲得

令和 7 年度は、これまで採択された「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」(J-PEAKS)関連シンポジウムへの参画、共創の場の教育・人材育成に関する交流・活動のほか、競争的資金の申請に係る伴走支援等を行った。令和 8 年度も J-PEAKS をはじめとするポストアワード及び新規プレアワードの支援を行う。

### 1.1.1 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)

令和 4 年度に北海道大学で採択された日本学術振興会(JSPS)の地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」において、共創センターも北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部(以下、大学院水産科学研究院)の関係教員と連携を図りながら、引き続きマネジメント体制の構築および事業の推進を図ったほか、論文投稿支援や関連イベントへの参画、研究支援事業の対応などを実施した。

#### ○論文投稿支援

研究者の論文投稿支援として、共創センターでは、下記のとおり、大学院水産科学研究院の教員を対象に、論文の投稿や英文校閲等に係る費用支出の手続き支援を行った。

令和 7 年度 論文投稿支援件数 10 件 英文校閲支援件数 8 件

#### ○IRAFF キックオフシンポジウム

北海道大学では、令和 7 年 4 月に「リジェネラティブ農林水産研究拠点(IRAFF: Institute for Regenerative Agri-Forest-Fisheries)」を設立し、土壌や海洋の環境回復、生物多様性の向上、水・森林資源の保全、そして農業者・漁業者の生産性・収益性の向上を同時に実現する新たな農林水産システムの構築を目指した研究を展開している。令和 7 年 8 月 5 日(火)に開催されたキックオフシンポジウム「リジェネラティブな食料生産システムの未来」において、大学院水産科学研究院からは、浦 和寛准教授(現教授)による「地域課題解決を目指した藻場再生とウニ養殖の両立」について発表が行われた。共創センターは産学官連携事業に係る支援として、本事業を推進する。



## ○研究支援事業の対応

北海道大学リジェネラティブ農林水産研究拠点(IRAFF)が主催する、「J-PEAKS 未来創造リジェネラティブ研究支援事業」のピッチコンテストが開催され、広報支援を行った。本研究支援事業の応募総数は 55 件に上り、その中から 22 件がピッチコンテストに選抜された。最終的に 10 件が採択課題となり、大学院水産科学研究院からは、高橋勇樹准教授による「シミュレーション技術と AI・機械学習による革新的な漁具・漁法の提案」が採択された。

### 1.1.2 共創の場

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の共創の場加速・充実化支援事業に採択され、実施(長崎大学 COI-NEXT「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点[代表機関]、北大は参画機関)した。ポータルページ「養殖を柱とした地域活性化のための人材育成事業」(長崎大学 / 琉球大学 / 北海道大学)を LASBOS Moodle 内に設置し、情報発信や 3 大学連携による教育プログラム交流などを実施した。

## ○ポータルページ(LASBOS Moodle 内)の開設・運用

3 大学連携による人材育成事業のポータルページを、共創センターが運用している「LASBOS Moodle」内に開設し、各事業の概要及び教育プログラムの特長を集約的に発信したほか、連携大学の学生の教育プログラム交流の募集や参加学生のレポートなどを公開した。



## ○教育プログラム交流(CREEN 人材育成カリキュラム(演習)へのスポット参加)

CREEN 人材育成プログラムのうち、養殖や水産に関する現場実践プログラム、起業家に必要な実践知見を身につけるプログラム、地域づくりを構想するプログラムに長崎大学の学生のスポット参加を認める教育プログラム交流を実施。参加体験の SNS 投稿、学びのレポート、関心を共にする学生同士の交流の 3 点をミッションとして課した。全 2 回、参加者 4 名。





### ○CREEN 人材育成プログラム参加者の意見交換会

CREEN 人材育成カリキュラム受講者による学びの意見交換会を実施。長崎大学のスポット参加者（令和 6・7 年度）7 名と令和 7 年度のカリキュラム受講者 4 名を対象に CREEN 人材育成カリキュラムでの学びプレゼンテーションと振り返り、カリキュラムの改善に向けての意見交換会を実施した。また、養殖事業先進地である長崎大学 高島水産研究所を訪問し、有瀧真人教授の養殖技術に関する講義の後、試験所の見学を実施した。



意見交換会の様子

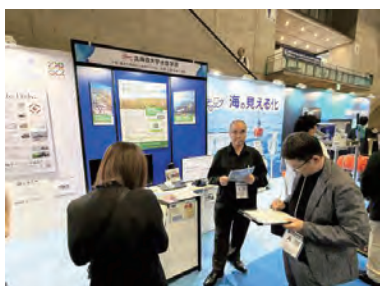


高島水産研究所訪問の様子



### ○CEATEC2025 海洋デジタル社会パビリオン出展

人材育成と ESG 経営への貢献を通じて、持続可能な海の未来を共に拓く新たな共創のあり方を提案し、未来の担い手と共に SDGs を実践する「海の SDGs 教育」を紹介した。展示ブースでは、来場者との意見交換や企業・団体への取組紹介を行い、リカレント教育に関するアンケート調査を実施した。



### ○3 大学合同の教育・人材育成のワークショップ「大学×企業 人材育成ワークショップ」

大学が理想とする像と企業のニーズを共有し、実践的な水産人材育成プログラムの基礎データを得ることを目的として開催され、水産業界の多様なニーズに対応できる「スペシャリストとジェネラリストの両立」や、現場に飛び込む「自己認識力・発想力」の重要性が議論された。また、学生が早期に現場（水産業）を知るための接点作りや機会創出が、将来の担い手向上の鍵として提案された。

### 1.1.3 その他連携大学・企業等の補助金申請支援状況

プレアワード業務(研究を行うために必要な研究資金獲得に向けた支援業務)やポストアワード業務(研究費を獲得した後に関わる研究支援業務)として、伴走支援した。

#### ○令和 7 年度 競争的資金獲得に向けた取り組みや支援案件

| 補助事業名(事業主体)                                                                                   | 内容                                                                                   | 申請者<br>(代表または本学担当教員等)                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 洋上風力発電人材育成事業費補助金<br>(経済産業省資源エネルギー庁)                                                           | 北海道洋上風力アカデミー                                                                         | 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター(担当教員:リニューアブルエネルギーリサーチ&エデュケーションセンター(REREC)藤森康澄教授) |
| 共創の場形成支援プログラム 他機関等との連携強化による拠点ビジョン実現の高度化・発展支援(JST)                                             | ・「ながさき BLUE エコノミー」海の食料生産を持続させる養殖業産業化共創拠点<br>・資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点 | 長崎大学<br>(担当教員:都木靖彰教授、細川雅史教授、他12名)<br><br>琉球大学<br>(担当教員:高橋勇樹准教授、他7名)    |
| スタートアップ総合支援プログラム(SBIR 支援)フェーズ 1(生研支援センター)                                                     | 陸上養殖の収益性・環境影響を予測する「養殖支援ソフトウェア;AQSim」の構築                                              | 研究代表者<br>高橋勇樹准教授                                                       |
| 大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 1 期 ステージ 2(JST)                                                          | 革新的海藻乾燥システムでつくる駆虫飼料の開発                                                               | 地方独立行政法人北海道立総合研究機構<br>(事業化人材:北海道大学大学院水産科学院 M2 辻井豪佑)                    |
| 「研究開発型スタートアップの起業・経営人材確保等支援事業/ディープテック分野での人材発掘・起業家育成事業(NEP)〈開拓コース〉「NEDO-Front-Runner(FR)」(NEDO) | 大量廃棄される養殖コンブの仮根“ガニアシ”の再利用方法の提案                                                       | 北海道大学大学院水産科学院 M2 辻井豪佑                                                  |

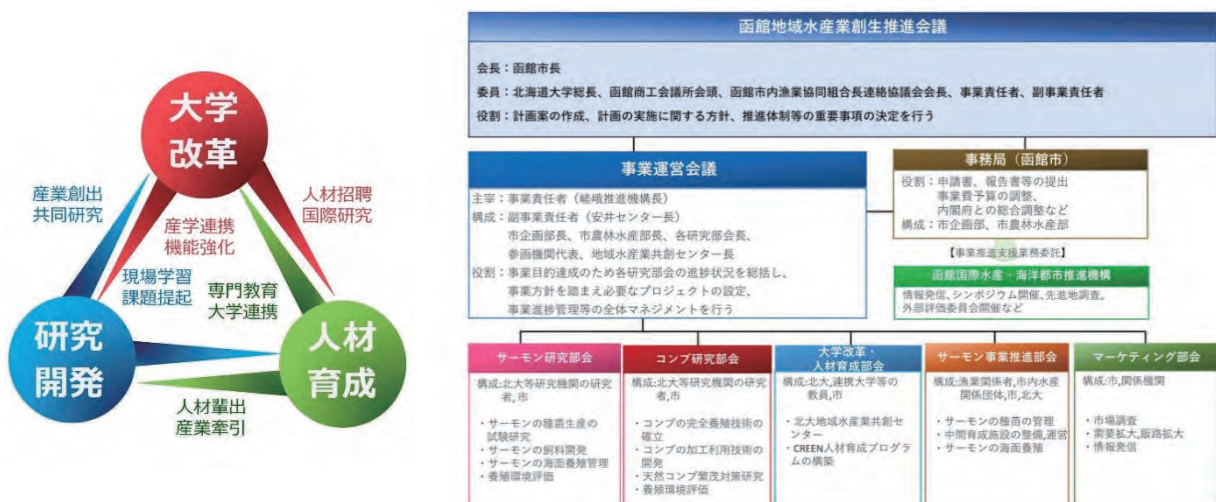
## ○令和 5 年度採択事業(継続中の事業)

| 補助事業名(事業主体)                                                         | 内容                                            | 採択日・事業期間                             |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------|
| 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業<br>(J-PEAKS)(日本学術振興会)                           | フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開 | 令和 5 年 12 月 22 日<br>令和 5 年度～令和 10 年度 |
| 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)<br>課題名:ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築(JST) | 自分らしく生き、自分の意志で決定できる社会をつくる学びの北海道モデルの構築と展開      | 令和 5 年 8 月 25 日<br>令和 5 年度～令和 9 年度   |

## 1.2 函館マリカルチャープロジェクトの研究開発支援

函館マリカルチャープロジェクト(計画名:魚介藻類養殖を核とした持続可能な水産・海洋都市の構築～地域カーボンニュートラルに貢献する水産養殖の確立に向けて～)は、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」を活用し、キングサーモンとマコブの完全養殖技術、さらには先駆的な取り組みとして魚類養殖により排出される CO<sub>2</sub> を海藻養殖により吸収する地域カーボンニュートラル(Regional Carbon Neutral:RCN)による水産養殖研究を推進して地域で養殖産業群を形成するとともに、その現場での実践的な教育研究により企業と若者を集め地域に定着させることで、持続可能な水産・海洋都市を実現することを目的とした事業である。

本事業は「サーモン研究部会」、「コブ研究部会」、「大学改革・人材育成部会」、「サーモン事業推進部会」、「マーケティング部会」の 5 つの部会から構成され、そのうち、共創センターは主に各部会の資料作成支援等のほか、「大学改革・育成部会」に関わる業務として、CREEN 人材育成プログラム(詳細は、「5.CREEN 人材育成プログラムの企画・運営」の項に記載)等の業務を実施している。令和 8 年度以降は、これまでの実績を踏まえ、社会実装を見据えたプロジェクト後半の準備を進める。



(引用:函館マリカルチャープロジェクト HP)



## 令和7年度 函館マリカルチャープロジェクトの研究開発支援に関わるスケジュール

|             | R7年度 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|-------------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
|             | 4月   | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| サーモン研究部会    |      | ●  |    |    | ●  |    |     | ●   |     |    |    | ●  |
| コンブ研究部会     |      | ●  |    |    | ●  |    |     | ●   |     |    |    | ●  |
| 大学改革・人材育成部会 |      | ●  |    |    | ●  |    |     | ●   |     |    |    | ●  |
| サーモン事業推進部会  |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| マーケティング部会   |      | ●  |    |    | ●  |    |     | ●   |     |    |    | ●  |
| 事業運営会議      | ●    |    |    |    | ●  |    |     | ●   |     |    |    | ●  |
| 推進会議        |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    | ●  |
| 外部評価委員会     |      |    |    | ●  |    |    | ●   |     |     |    |    |    |
| 内閣府TV会議     |      |    |    |    |    | ●  |     |     |     |    |    |    |
| 内閣府継続審査     |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    | ●  |    |
| 展開枠関係       |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    | ●  |    |

## 1.2.1 サーモン研究部会および 1.2.2 コンブ研究部会

研究開発の柱である「キングサーモン完全養殖研究開発」と「マコンブ完全養殖研究開発」の支援として、受託研究契約の支援の他、研究部会への出席(計4回)や研究課題の追加・修正に関する相談・調整などを実施した。

## 1.2.3 大学改革・人材育成部会

共創センターが実施主体として進めている CREEN 人材育成プログラムに関して、大学改革・人材育成部会の開催(令和7年度は計4回)や、各種教育プログラムの企画・実施を行った。(詳細は、「5.CREEN 人材育成プログラムの企画・運営」の項に記載)

## ○海外トップレベル人材の招へい

令和6年7月に部局間交流協定を締結したノルウェー・ベルゲン大学と、国際共同研究および協働教育に関する連携を強化している中で、令和7年度も引き続きノルウェーから養殖業の最先端研究や水産生物の食欲や飼料摂取量に関する研究について、トップレベル人材を招へいしての講義を開催したほか、締結にともない北大研究者4名が現地交流を行った。

また、他地域での最新のキングサーモンの養殖研究として、ニュージーランド・オタゴ大学から研究者を招へいし、学生向け、研究者向けにそれぞれ講義を実施するなど国際的に展開する養殖研究について学生の知見を広げる機会とし、あわせて、研究者間の交流促進を図った。

## &lt;トップレベル人材 令和7年度招へい実績&gt;

| 招へい日                  | 招へい人材                                          | 講義内容                                          |
|-----------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 6月10日(火)<br>～13日(金)   | ノルウェー・ベルゲン大学<br>トム・オル・ニールセン准教授<br>イバル・ロネスタッド教授 | ノルウェーの水産養殖と水産業に関する講義<br>水産養殖における摂餌量と成長についての講義 |
| 9月30日(火)、<br>10月1日(水) | ニュージーランド・オタゴ大学<br>マーク・ロックマン教授                  | キングサーモン養殖の過去、現在、そして未来<br>学生向け&教員向け 各1回        |



ベルゲン大学 Tom Ole Nilsen准教授



ベルゲン大学 Ivar Ronnestad教授



オタゴ大学 Mark Lokman教授



## ○国内トップレベル人材の雇用(クロスアポイントメント)

学術教育に加え実務教育を推進するために魚介藻類養殖に精通する会社関係者を雇用し、地域の養殖産業の確立に貢献してもらうと共に学生教育の充実を図った。



講義の様子

日本サーモンファーム株式会社 代表取締役社長 鈴木宏介氏

サーモン養殖産業の最前線に関する知識や経験を教員や学生に教授し、  
養殖現場の視察研修の講師を担当

令和7年6月10日(火)～6月11日(水)、クロスアポイントメント業務の一環として「青森県サーモン養殖場(日本サーモンファーム株式会社)視察」を実施した。

今回の視察では、北海道大学総長が日本サーモンファーム株式会社(JSF) 代表取締役社長 鈴木宏介氏(共創センタークロスアポイントメント特任准教授)の案内のもと、青森県今別町のサーモン養殖場を訪問した。青森県産サーモントラウト(ニジマス)のフィッシュポンプによる水揚げ現場をはじめ、自動給餌船(バージ船)や大規模中間育成場を視察し、最新の技術や管理体制について説明を受け、海面養殖生産における最前線の取り組みを確認した。



フィッシュポンプ水揚げ(左)、中間育成施設(中央)、バージ船内・モニタリング給餌(右)見学の様子



#### 1.2.4 サーモン事業推進部会

サーモンの事業化に際しての必要事項の洗い出しや今後の計画について議論する部会について、関係者から情報共有を定期的実施した。

#### 1.2.5 マーケティング部会

マーケティング戦略の策定等を行い、マコンブ研究開発の出口となる増産分の利用促進・販路拡大に向けた取り組みを検討する部会(4回)に出席し、部会の取り組み状況についての情報収集を行った。

#### 1.2.6 展開枠にむけたプレヒアリングへの対応

令和 9 年度以降の展開枠申請に向けたプレヒアリングについて、資料の作成及び関係者の日程調整、会場設営、機材セッティングなど実施を支援した。

#### 1.2.7 その他

その他、函館マリカルチャープロジェクトの PR 活動を行った。

#### ○函館マリカルチャープロジェクト成果報告会

産学連携学会第 23 回大会函館大会において、「函館マリカルチャープロジェクト成果報告会」を実施した。函館市の担当者からプロジェクトの目的と背景全般について説明が行われ、キングサーモン完全養殖研究開発、マコンブ完全養殖研究開発、大学改革・人材育成についてそれぞれのグループ長から成果報告が行われ、それらの報告を受けてパネルディスカッションを行い、プロジェクトの今後の方向性や期待すること等について議論・意見交換を実施した。



大学改革・人材育成の講演



パネルディスカッションの様子

#### ○BLUE ECONOMY EXPO@ Suruga Bay

令和 6 年 7 月 28 日(月)～29 日(火)に「BLUE ECONOMY EXPO@Suruga Bay」に参加し、函館市の出展ブースにおいて、函館マリカルチャープロジェクトの取り組みを PR したほか、研究開発に関する説明を展開。ブースには約 50 社が訪れ、有意義な情報共有・意見交換がなされた。

### 1.3 その他の支援

共創センターや本学研究者の取り組みなどを広く知ってもらうとともに、地域への学びの機会を提供する取り組みとして、本学や共創センターへの視察訪問対応や各種イベントへの参画などを実施した。令和 8 年度も継続して実施し、大学院水産科学研究院の取り組みの周知および地域への学びの機会提供に努める。

#### 1.3.1 韓国チェジュ大学視察研修

令和 7 年 10 月 27 日(日)から 30 日(木)にかけて、韓国済州大学から済州大学校の RISE 教育革新連携プログラム研修生(11 名+教員 3 名)の受け入れを行った。

(担当:北方生物圏フィールド科学センター 平松教授)

株式会社合食の工場見学、函館市国際水産・海洋総合研究センターおよび北海道立工業技術センターの施設見学について企画・調整をサポートし、大学院水産科学研究院では意見交換と講師 4 名による講義を実施した。

#### 1.3.2 マリンフェスティバル 2025 への参画

令和 7 年 7 月 19 日(土)・20 日(日)の 2 日間、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて開催された「函館マリンフェスティバル 2025」において、共創センターの展示と函館マリカルチャープロジェクトの人材育成事業「CREEN 人材育成プログラム」に関するPRを展開した。また、オンライン教材システム「LASBOS(Learning and Study by Balance de Ocean System)」のPRを実施し、LASBOS カードを配布した。



展示の様子

(写真提供：(一財)函館国際水産・海洋都市推進機構)

#### 1.3.3 JICA 研修への支援

令和 7 年 8 月 18 日(月)～9 月 26 日(金)の期間、大学院水産科学研究院が独立行政法人国際協力機構(JICA)から委託を受け、アフリカ・東南アジア域から研修生が参加した国際研修「水産資源の持続的利用とバリューチェーン開発/特別実習水産開発ファシリテーション(FDF)」を実施、共創センターでは令和 7 年 9 月 1 日(月)にセンターの紹介を実施した。



## 2.研究シーズの把握・発信

共創センターでは、研究者の研究シーズを発掘し、社会実装の可能性や地域の課題解決に向けた取り組みに繋がれるかの検証を行うとともに、研究内容をより企業・自治体・地域の方々に知ってもらうため、教材サイト「LASBOS」などを活用した情報発信を実施した。令和 8 年度以降も効率的な情報収集・作成と発信を継続する。

### 2.1 教員インタビューによる研究シーズの把握

大学院水産科学研究院に所属の教員を対象に、研究シーズの把握や外部競争資金とのマッチング、研究広報の充実などを目的に、インタビューを実施した。

#### 【対象人数】

令和 5 年度実施 30 名

令和 6 年度実施 20 名

令和 7 年度実施 14 名 合計 64 名

|                       |      |          |           |
|-----------------------|------|----------|-----------|
| 小林 彰子                 | 准教授  | 水産食品科学   | 9 月 3 日   |
| 駿河谷 諒平                | 助教   | 増殖生物学    | 9 月 3 日   |
| 樋口 一郎                 | 特任助教 | 増殖生物学    | 9 月 4 日   |
| 五味 伸太郎                | 助教   | 水産工学分野   | 9 月 4 日   |
| 田中 啓之                 | 助教   | 海洋生物工学   | 10 月 1 日  |
| 安藤 靖浩                 | 准教授  | 生物資源化学   | 10 月 1 日  |
| 丸山 英男                 | 准教授  | 水産資源開発工学 | 10 月 2 日  |
| 清水 宗敬                 | 教授   | 水産資源開発工学 | 10 月 2 日  |
| 野村 大樹                 | 教授   | 海洋環境科学   | 10 月 20 日 |
| 東条 斉興                 | 助教   | 海洋共生学    | 10 月 22 日 |
| BOWER JOHN<br>RICHARD | 准教授  | 海洋共生学    | 10 月 23 日 |
| 西川 はつみ                | 准教授  | 海洋環境科学分野 | 1 月 14 日  |
| 都木 靖彰                 | 教授   | 増殖生物学    | 2 月 10 日  |
| 浦 和寛                  | 准教授  | 増殖生物学    | 2 月 24 日  |

令和 8 年度も引き続き部局内の研究シーズ把握と情報収集を行いながら、部局(教員－教員等)間や部局と企業間との連携可能性など、外部競争資金とのマッチング、研究広報の充実を検討していく。

## 2.2 教員インタビュー映像コンテンツの制作

既に実施した教員インタビューの中から、社会実装につながる可能性が高い研究シーズ(教員)を選び、研究紹介の取材動画を作成・発信する。対象は特に、研究に関心を持つ中高生・大学1年生、産学連携・地域連携につながる企業・自治体関係者を想定。取材の際の共通項目に、研究紹介、研究の課題、研究の社会実装の可能性、研究を志す学生・共同研究や共創教育を考える企業へのメッセージ等を含む。令和7年度は、5件の取材(藤本教授、平松教授、東藤教授、中屋准教授、別府准教授)を実施し、コンテンツ化をおこなった。今後、LASBOS に搭載して公開を進める。



中屋准教授の取材コンテンツ



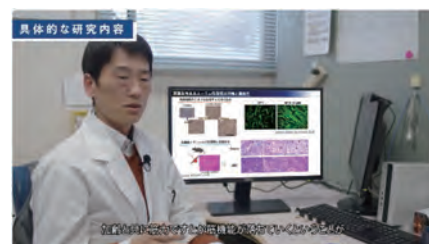
藤本教授の取材コンテンツ



東藤教授の取材コンテンツ



平松教授の取材コンテンツ



別府准教授の取材コンテンツ

## 2.3 LASBOS システムの利活用による発信

共創センターが運営している教材サイト「LASBOS Moodle」や「LASBOS YouTube」を活用し、大学院水産科学研究院の研究者や学部生・大学院生の研究内容を動画コンテンツ化・配信するなど、広く研究シーズを発信した。



LASBOS YouTube



LASBOS Moodle



### <発信の例>

#### ○動画コンテンツ「グリーンランド取材【日常生活編】」

北極域研究加速プロジェクト(ArCS II: Arctic Challenge for Sustainability II)のご協力のもと、沿岸環境課題の一環としてグリーンランド・カナックに滞在して研究活動を行う研究者を対象に行った。実際に学生を現地に派遣し、取材と帰国後のコンテンツ制作を行い、公開した。

(コンテンツは、バランスドオーシャン事業(現共創センターLASBOS チーム)の一環として企画され、LASBOS コンテンツとして制作された。)



## 2.4 産学・地域協働コーディネート業務実績

令和 7 年度は企業や団体からの相談の他、函館圏域の水産業を中心とした課題抽出のため、積極的に地域企業との協議の場を設けた。そのための個別の企業との面談数が下記の令和 7 年度相談実績(延べ)であり、意見交換会(詳細は、「3. 地域連携に向けた活動」の項に記載)での企業との面談数は含んでいない。

令和 8 年度は 11 月に未来共創プラットフォーム(仮)構築に向けたシンポジウムの開催を予定している。

#### 【令和 7 年度 相談実績(延べ)】

| 行政 | 企業  | 団体 | 大学<br>(研究者) | 学生 | その他 | 合計  |
|----|-----|----|-------------|----|-----|-----|
| 64 | 314 | 45 | 54          | 22 | 76  | 575 |



## 3. 地域連携に向けた活動

共創センターでは、地域の自治体、企業、団体と連携し、それぞれが持つ課題や地域活性化に向けた展望をヒアリングする中で、研究者とのマッチングや各種イベントへの参画など、様々な地域連携に向けた活動を行っている。

令和 7 年度においても、地域企業が意見交換を行う場として地域懇話会の実施や道南地域との連携、自治体訪問によるヒアリングなどを実施し、地域に根差した活動を展開した。令和 8 年度も継続して地域との連携活動を実施し、地域共創を推進していく。

### 3.1 地域懇話会の実施

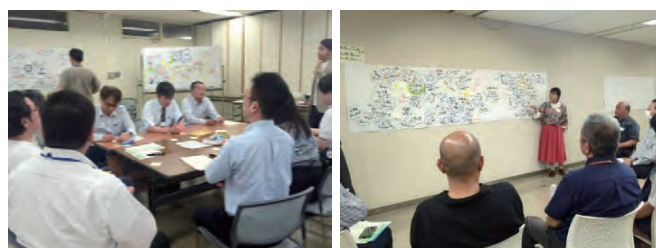
人口減少と高齢化による労働力不足、また主産業である水産業の不振が函館市全体の衰退を加速、経済全体の停滞を招いている。新たな産業育成と多角化が急務であることから、産業界を横断する多様な関係者が集結し、函館の産業が抱える本質的な課題を抽出、共通認識のもとで未来を築くことが不可欠と捉え、2 回の「意見交換会」を実施した。(第 1 回:令和 7 年 11 月 4 日(火)、第 2 回:令和 8 年 2 月 26 日(木))

この意見交換会は、将来的に函館市独自の「プラットフォーム」を築き、地域関係者が連携して課題解決に取り組むことを目指すものである。



第 2 回意見交換会の様子（令和 8 年 2 月 26 日・北大水産学部/水産科学未来人材育成館にて）

第 2 回意見交換会を実施するにあたり、函館商工会議所青年部会、北海道中小企業家同友会函館支部、函館特産食品工業協同組合などの団体や、市内の多くの企業のトップとの事前協議を実施した後に開催したことで、市内企業 23 社、札幌・東京を中心とする市外大手企業 16 社、行政・教育機関・団体などの多方面から、合計 81 人の参加があった。



意見交換の様子

（写真提供：(株) たがやす）

## 3.2 自治体との連携

### 3.2.1 三者包括連携協定(更新)を締結している知内町との連携活動

令和 7 年 10 月 24 日(金)、知内町との連携協定に基づき知内町漁業見学ツアーを実施。知内町水産業の主要売り上げにつながっている、「ウニ種苗生産施設」の現場を見学するとともに、知内町独自の海洋での中間育成の現場での作業を見学。また、水中ドローンによる養殖現場の水中撮影や中間育成ウニの出荷作業を体験した。



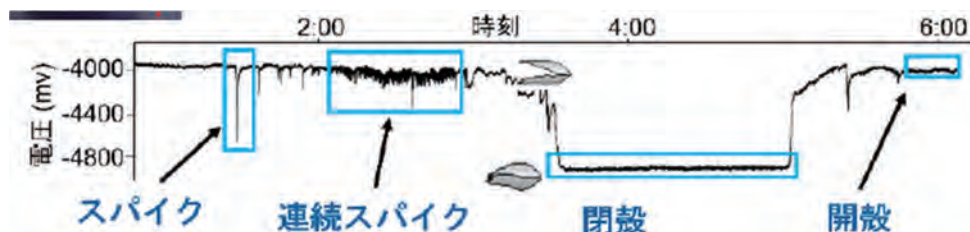
ウニ中間育成についてのレクチャー  
(上磯漁業協同組合の富森専務理事)



水中ドローンで養殖施設を観察する  
プログラム参加者(ウニ中間育成場)

### 3.2.2 三者包括連携協定(更新)を締結している知内町での研究

海洋資源科学科・富安助教の研究室の「養殖マガキの摂餌・産卵行動の研究」が、知内漁協の漁業者の協力を得て令和 8 年度に実施することが決まった。養殖場の複数のカキにセンサーを取り付け、摂餌頻度や産卵行動の差を調べ、成長や品質の差にどのようにつながっているかを確認できる可能性を持った研究となる予定。



(左) 磁力センサーを装着したカキ。磁力の強さで殻の開いている距離を計測する。

(右) センサー値とカキの行動の典型例。殻が開いている時は電圧が小さくなり、時折急峻な開閉行動(スパイク)が見られる。

### 3.2.3 青森県下北郡風間浦村との包括連携協定を締結

平成 28 年から風間浦村の特産品でマスコットキャラクターにもなっているキアンコウの生態を研究してきた、海洋生物科学科・中屋准教授をはじめ複数の教員の研究に協力をしてきた。また、北大としてもこれまで小学生向けの「水産教室」への協力をはじめとする村の水産に係る検討などに協力をしてきたことを踏まえ、令和 8 年 3 月 3 日(火)、包括連携協定を締結した。締結後はキアンコウに関する研究の他、磯焼け対策に関する調査研究などを含めた、水産振興に係る研究のフィールドとして活用すると同時に、風間浦村としても村保有の水産施設の無償提供や必要な改修などが実施される。また、村をフィールドとした調査研究活動に対し、研究補助金を支援することとした。

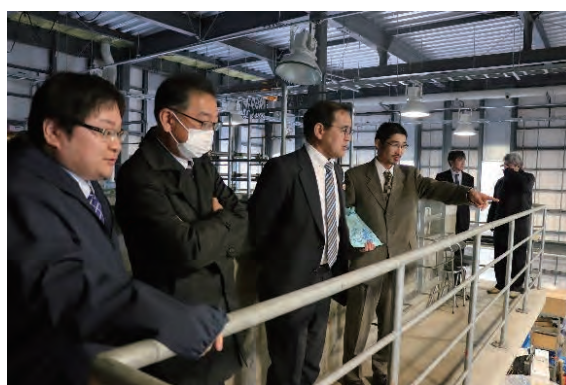




協定締結式の様子



意見交換会の様子



施設見学の様子

### 3.3 自治体訪問・ニーズの発掘

様似町の「バナメイエビ完全閉鎖型陸上養殖の検討事業」に協力。第1回および第3回の勉強会に海洋資源科学科の高橋准教授、第2回勉強会には海洋生物科学科には石原助教を講師として派遣した。検討事業は令和8年度も継続中であり、必要に応じ講師派遣を実施することとなっているとともに、令和9年度に計画している小規模実証試験には対応する研究者との共同研究の方向で進捗中である。





## 4.学術コンサル・共同研究・寄附金等に繋げる活動

企業からの問い合わせ・相談などに基づき、また、前年までに実施してきた学術コンサルティングから発展し共同研究に結びつけるなどの活動を展開。その他、学術的連携や人材育成に係る連携を寄附につなげる活動を展開した。

### 4.1 企業訪問、ニーズの発掘

企業のニーズの発掘、またはそれによる研究シーズとのマッチングを目的とし、函館市内に限らず、道南地域や本州企業を訪問、電話・メールなどによる問い合わせ、大学院水産科学研究院の教員や本学の産学・地域協働推進機構からの紹介等に対応した。

### 4.2 企業との連携 ※令和 7 年度の具体的な連携実績のみ記載

企業の事業活動の支援・課題解決のための企業相談や企業訪問等により、学術コンサルティングや寄附金などの資金を獲得。

#### 4.2.1 株式会社 富士

水産資源由来の副産物を活用した製品の企画・販売に関する新規事業化検討を目的とした、副産物に関する事、及び製品化における課題、製品化に資する技術に関する学術コンサルティング契約を締結、漁業現場や水産加工現場・廃棄物処理現場・役所などに対するヒアリングをコーディネート、同行訪問を実施した。

#### 4.2.2 日本精工株式会社

養殖技術開発に伴う貢献が出来ないかという発想から、養殖現場での課題抽出、及び課題解決へ向けた自社技術の活用についての協議があり、学術コンサルティング契約を締結。養殖現場の漁協・漁業者とのヒアリングをはじめ、加工現場のヒアリングをコーディネートした。

令和 8 年度以降、「養殖水産物の生残率向上に係る技術開発」の共同研究として継続予定。

#### 4.2.3 ナガセサンバイオ株式会社

水産廃棄物として廃棄されている未利用資源の有効活用を目的とした開発餌料を用い、ニジマスを対象に給餌試験を行い、そのことによる成長促進効果を確認する共同研究を締結。

#### 4.2.4 株式会社ベルデアクア

閉鎖循環式養殖システムをウニ養殖に適用させるため、飼育・設備・濾過制御の最適化に係る学術コンサルティング契約を締結。

#### 4.2.5 旭化成株式会社

海藻由来の有用物質の抽出・精製方法を確立するための共同研究。(産地機構との連携)

#### 4.2.6 株式会社ムトウ

共創センターの活動趣旨の理解を受け寄附金を受領予定。(令和7年度より5か年)

### 4.3 外部提供資金による共創教育(インターンシップ等)

企業からの資金提供(寄付等)を得つつ、社会現場における学生の学びを進展させるプログラムを支援企業とともに協働で企画・実施。

| 企業名                                                                                            | 主な取り組み内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 獲得資金(寄附金)         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|  築地魚市場株式会社    | 水産卸業を担う次世代の社会活躍人材を企業・大学の協働で育成するため(共創教育)、早期の業種理解や動機付けを目的とした教育プログラムを企業と共同で企画、実施を開始した。LASBOSコラボプログラムを共創教育の枠組みとし、豊洲市場訪問研修のMoodleコースを教材作成したうえで、令和7年8月7日(木)～9日(土)2泊3日で水産学部学生3名の豊洲市場の見学研修を実施した。<br>参加後は、研修中の体験のSNS投稿および学びのレポートをLASBOS Moodleで公開した。企業側では、次年度および企業インターンの改良を企図して、参加学生へのアンケートを実施し、企業担当者と担当教員との振り返りを行った。 | LASBOSコラボプログラム    |
|  株式会社大歩      | 水中ドローンを活用する人材の育成に対して、LASBOSコラボプログラムの枠組みを通して企業支援を戴き、共創教育を実施中(令和4年より)。LASBOS上にMoodleコースを設置したうえで、キャンパス/企業のプールなどで練習を行い、奥尻でのドローン運用実践を実施。奥尻高校と北大水産科学研究院の包括連携も背景にしつつ、令和7年度は奥尻高校生徒に学生(水産学部・水産科学院)が訪問トレーニングを提供する地域連携教育にも展開した。                                                                                         | LASBOSコラボプログラム    |
|  フィードワン株式会社 | 水産飼料の研究開発人材の育成を企図して、研究所および工場の2か所を対象に教員の引率のもと2名の学生(水産学部・水産科学院)が視察研修を実施した(11月10日(月)～14日(金))。実施後、参加学生による研修レポートを作成、提出。                                                                                                                                                                                           | フロンティア基金・共創センター支援 |



| 1日目 8/7                    | 2日目 8/8                                    | 3日目 8/9                            |
|----------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------|
| 9:00 札幌発・羽田着<br>(函館は9:10発) | 2:20 ホテル集合                                 | 9:00 会社集合<br>先輩紹介                  |
| 13:00 会社概要等説明<br>明朝ゼリ場説明   | 3:00 セリ場見学開始<br>7:30 仲卸見学<br>9:00 見学内容 まとめ | 10:00 共同水産他見学<br>11:45 解散<br>羽田空港へ |
| 15:00 ホテル着 解散              | PM 築地場外等見学                                 |                                    |

築地魚市場による豊洲見学研修

募集チラシ(左)、プログラム(中)、学びのレポート(右)



| 学年  | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年  |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 1年  | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年  |
| 2年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年  |
| 3年  | 3年  | 4年  | 5年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年  |
| 4年  | 4年  | 5年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年  |
| 5年  | 5年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年  |
| 6年  | 6年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年  |
| 7年  | 7年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年  |
| 8年  | 8年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年  |
| 9年  | 9年  | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年  |
| 10年 | 10年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年  |
| 11年 | 11年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年  |
| 12年 | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年  |
| 13年 | 13年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年  |
| 14年 | 14年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年  |
| 15年 | 15年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年  |
| 16年 | 16年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年  |
| 17年 | 17年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年  |
| 18年 | 18年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年  |
| 19年 | 19年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年  |
| 20年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年  |
| 21年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年  |
| 22年 | 22年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年  |
| 23年 | 23年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年  |
| 24年 | 24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年  |
| 25年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年  |
| 26年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年  |
| 27年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年  |
| 28年 | 28年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年  |
| 29年 | 29年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年  |
| 30年 | 30年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年  |
| 31年 | 31年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年  |
| 32年 | 32年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年  |
| 33年 | 33年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年  |
| 34年 | 34年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年  |
| 35年 | 35年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年  |
| 36年 | 36年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年  |
| 37年 | 37年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年  |
| 38年 | 38年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年  |
| 39年 | 39年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年  |
| 40年 | 40年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年  |
| 41年 | 41年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年  |
| 42年 | 42年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年  |
| 43年 | 43年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年  |
| 44年 | 44年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年  |
| 45年 | 45年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年  |
| 46年 | 46年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年  |
| 47年 | 47年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年  |
| 48年 | 48年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年  |
| 49年 | 49年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年  |
| 50年 | 50年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年  |
| 51年 | 51年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年  |
| 52年 | 52年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年  |
| 53年 | 53年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年  |
| 54年 | 54年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年  |
| 55年 | 55年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年  |
| 56年 | 56年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年  |
| 57年 | 57年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年  |
| 58年 | 58年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年  |
| 59年 | 59年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年  |
| 60年 | 60年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年  |
| 61年 | 61年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年  |
| 62年 | 62年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年  |
| 63年 | 63年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年  |
| 64年 | 64年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年  |
| 65年 | 65年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年  |
| 66年 | 66年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年  |
| 67年 | 67年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年  |
| 68年 | 68年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年  |
| 69年 | 69年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年  |
| 70年 | 70年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年  |
| 71年 | 71年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年  |
| 72年 | 72年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年  |
| 73年 | 73年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年  |
| 74年 | 74年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年  |
| 75年 | 75年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年  |
| 76年 | 76年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年  |
| 77年 | 77年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年  |
| 78年 | 78年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年  |
| 79年 | 79年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年  |
| 80年 | 80年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年  |
| 81年 | 81年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年  |
| 82年 | 82年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年  |
| 83年 | 83年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年  |
| 84年 | 84年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年  |
| 85年 | 85年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年 | 96年  |
| 86年 | 86年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年 | 96年 | 97年  |
| 87年 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年 | 96年 | 97年 | 98年  |
| 88年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年 | 96年 | 97年 | 98年 | 99年  |
| 89年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年 | 96年 | 97年 | 98年 | 99年 | 100年 |

奥尻でのドローン実習の様子(左)、高校生に提供した教育プログラム(右)



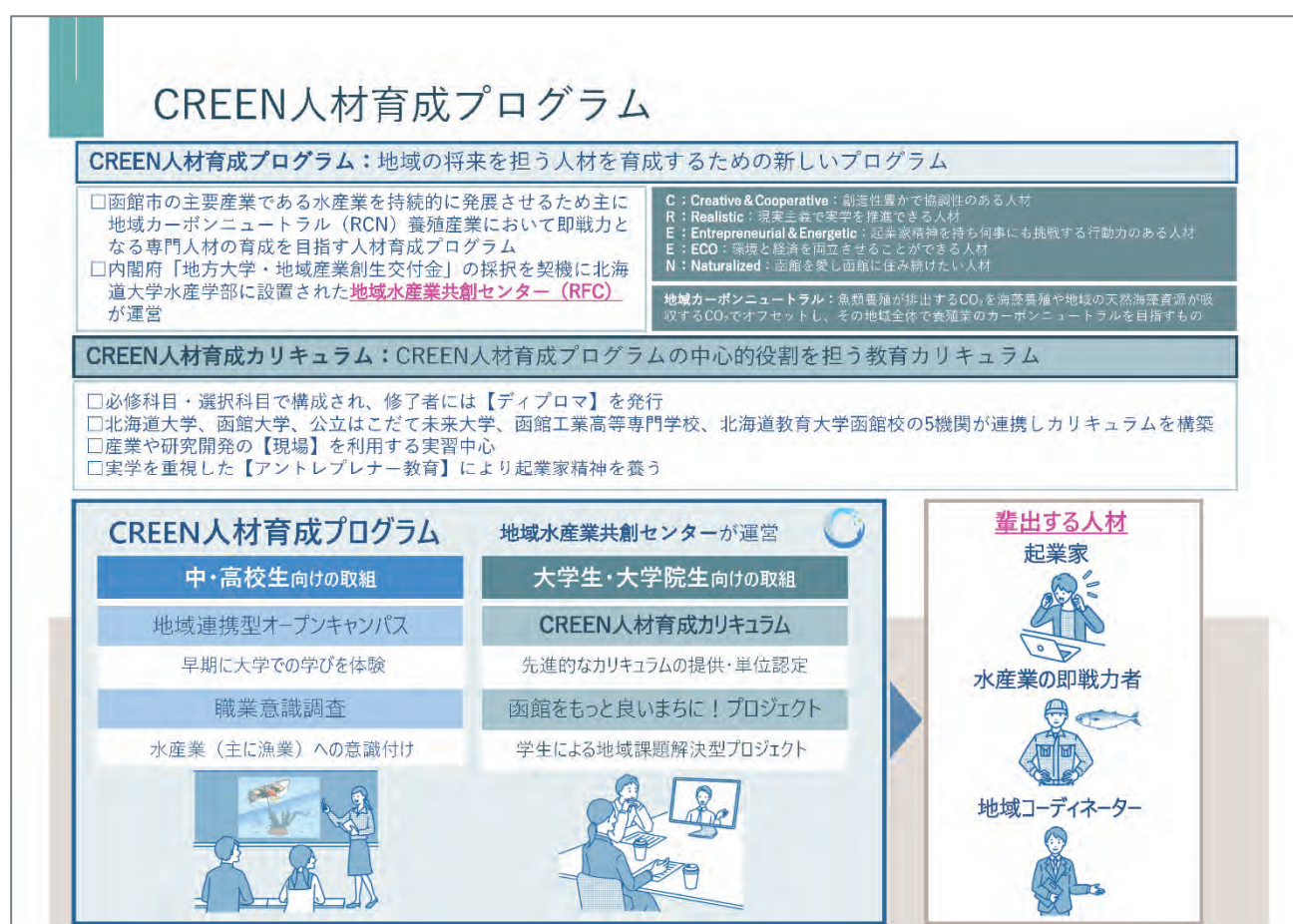


## 5. CREEN 人材育成プログラムの企画・運営

CREEN 人材育成プログラムとは、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」による「函館マリカルチャープロジェクト」の人材育成事業の一環として、生産、加工、販売、観光といった広範囲な水産業サプライチェーンを体験できる水産海洋都市・函館の地の利を活かし、水産業を中心とした地域産業に関連する大学・企業・自治体等の協働により、マーケット分析、バリューチェーン解析、アントレプレナーシップなど、RCN 養殖を中心とした持続可能な水産業の創出のために必要となる総合的な能力の涵養を目的としたプログラムである。

共創センターはこのプログラムの企画・運営を行っており、特に市内の高等教育機関と連携し、地域の特徴や課題解決方法を学ぶ中心的教育課程「CREEN 人材育成カリキュラム」のほか、学生が自ら地域の課題解決に取り組む「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」などは、プログラムの重点事業として推進している。

### <CREEN 人材育成プログラムの概要>



## 5.1 CREEN 人材育成カリキュラム

CREEN 人材育成プログラムの主要事業の一つであり、共創センターが主体となって公立はこだて未来大学、函館大学、函館工業高等専門学校、北海道教育大学函館校と連携してプログラムを構築し、令和 5 年度より段階的に試行をおこない、令和 7 年度に本格実施となった。

カリキュラムは、現場実習を中心とした必修科目 2 科目(水産学演習、地域創生演習)4 クレジットを取得、7 つの科目分野(養殖・水産加工、観光・食産業、物流革新・海外輸出・With コロナ、AI&IoT、地域資源活用、公共政策論、マーケティング)からなる選択科目から目指す人材像に合わせて 8 クレジット以上を取得する。クレジットは大学の単位とは異なるカリキュラム独自の「単位」であり、所定のクレジットを取得した受講生には CREEN 人材育成カリキュラム履修のディプロマ(証明書)が発行される。今後も学生の意見等を反映し、より魅力的なカリキュラムへと改良して地域人材の育成に貢献する。

### <履修ガイド>(一部抜粋)



### <募集フライヤー>(表面)

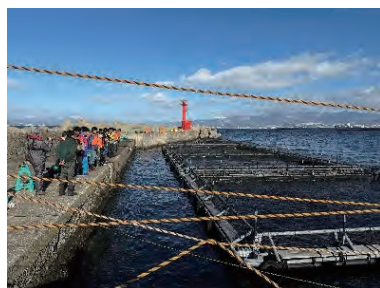


### 5.1.1 必修科目:水産学演習(全 10 回)

水産学演習は、漁業・養殖業・水産加工業の現場を体験し、水産業の現状理解と課題解決のための能力を養う講義・演習である。



昆布巻試作体験(第 5 回)



サーモン養殖生け簀見学(第 9 回)



グループワークと発表(第 10 回)



<令和 7 年度 水産学演習>      参加実績    延べ人数 167 人    実人数 24 人

| No | 日程        | 時間                                       | タイトル                                                       | 受講者 |
|----|-----------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----|
| ①  | オンデマンド    | 90分                                      | コンブ課題のイントロダクション                                            | 21  |
| ②  | オンデマンド    | 90分                                      | 函館圏におけるサケマス類水産業に関する歴史・現状・課題点                               | 21  |
| ③  | 6月17日(火)  | 9:00～16:00                               | サーモン養殖生け簀見学研修1・収穫期<br>サーモン加工工場見学研修                         | 13  |
| ④  | 6月21日(土)  | 6:00～12:30                               | コンブの収穫・乾燥作業等、浜における出荷前作業研修                                  | 19  |
| ⑤  | 8月4日(月)   | 10:00～12:00                              | コンブの産地加工・産地品質・生産流通                                         | 16  |
| ⑥  | 9月26日(金)  | 13:00～16:15                              | コンブ種苗生産について(講義と実験室での観察)                                    | 15  |
| ⑦  | 10月4日(土)  | 9:30～11:00<br>11:00～12:00<br>13:30～15:30 | 種苗生産の現場(種苗生産・種付けの現場)研修<br>コンブ漁業の現状・将来像<br>コンブの加工工場視察の現状と課題 | 16  |
| ⑧  | 11月15日(土) | 12:00～17:00                              | コンブ水産業に関するグループワークと発表                                       | 14  |
| ⑨  | 12月6日(土)  | 9:30～16:30                               | サーモン養殖生け簀見学研修2・池入れ期<br>水産加工工場見学                            | 17  |
| ⑩  | 12月13日(土) | 12:00～17:00                              | サケマス類水産業に関するグループワークと発表                                     | 15  |

### 5.1.2 必修科目:地域創生演習～起業家・コーディネーター入門(全 15 回)

地域創生演習は、地域産業の特徴や課題を理解するとともに、産学官連携コーディネーターや起業のための基礎知識や戦略の基礎を学ぶ講義・演習である。



北洋資料館でのレクチャー(第 1 回)



フィールドワークの様子(第 7 回)



グループディスカッションの様子(第 8 回)

<令和 7 年度 起業家育成演習> 参加実績 延べ人数 189 人 実人数 24 人

| No | 日程       | 時間          | タイトル                                                    | 参加人数 |
|----|----------|-------------|---------------------------------------------------------|------|
| ①  | 9月8日(月)  | 17:00~18:30 | 地域の産業史を知り、史料情報をビジネスに活用する:地域資料・アーカイブ資料                   | 12   |
| ②  | オンデマンド   | 90分         | 北海道地域における水産加工企業の現状と課題                                   | 14   |
| ③  | オンデマンド   | 90分         | 函館地域産業の現状と活性化                                           | 12   |
| ④  | 9月9日(火)  | 14:45~16:15 | 函館のまちの歴史と現状                                             | 11   |
| ⑤  | 9月10日(水) | 13:00~14:30 | なぜ在学中に起業したのか? 取組の紹介と課題~ナチュラルに起業する~                      | 13   |
| ⑥  | 9月10日(水) | 14:45~16:15 | 産学官連携コーディネーターとは                                         | 12   |
| ⑦  | 9月12日(金) | 9:00~12:00  | 地域の起業先駆者と地域資源の探求(フィールドワーク)                              | 13   |
| ⑧  | 9月16日(火) | 9:00~10:00  | 事例紹介1 青森県におけるサーモン大規模養殖事業                                | 12   |
|    |          | 10:00~12:00 | 事例紹介2 地域資源の高付加価値化を通じた産業振興のための取組事例                       |      |
|    |          | 10:00~12:00 | 事例紹介2 食品開発におけるエビデンスの重要性                                 |      |
|    |          | 10:00~12:00 | 事例紹介2 地域食品素材を利用した製品開発                                   |      |
|    |          | 13:00~14:30 | 事例紹介3 地域企業への乾燥技術や乾燥食材利用技術による企業支援について                    |      |
|    |          | 14:30~15:30 | 北海道立工業技術センター 施設見学                                       |      |
|    |          | 15:30~17:00 | グループディスカッション                                            |      |
| ⑨  | 9月17日(水) | 13:00~16:00 | 企業による起業支援、さまざまな起業の形                                     | 13   |
| ⑩  | 9月18日(木) | 13:00~14:30 | 未来に羽ばたく人材のための起業と経営入門                                    | 11   |
| ⑪  |          | 14:45~16:15 | 起業のアイデア創出とビジネスモデルの策定                                    | 11   |
| ⑫  | 9月19日(金) | 13:00~14:30 | シリコンバレーの流儀、イノベーションを考える                                  | 14   |
|    |          | 14:45~16:45 | 実践エレベーターピッチ解説と実習指導その1                                   |      |
| ⑬  | 9月20日(土) | 10:00~11:30 | スタートアップ事例研究日米の現役CEOのプレゼン、webで繋ぎ直接意見交換。                  | 14   |
|    |          | 13:00~14:30 | エレベーターピッチの解説と実習指導その2                                    |      |
| ⑭  | 9月22日(月) | 13:15~14:45 | 行政による地域(産業)の活性化、新企画の立案と推進<br>~函館市の活性化総合戦略・海洋都市構想・産学官連携~ | 14   |
| ⑮  | 9月22日(月) | 15:00~16:30 | 大学・大学院で学び研究することとスタートアップ                                 | 13   |

なお、本科目(「水産学演習」「地域創生演習」)の実施にあたっては、受講生を対象にアンケートを実施し、受講学生に対するモチベーション分析や要望などを聞き、視察回数を増やすなど、カリキュラム充実化のための改良を継続している。

### 5.1.3 選択科目

市内の高等教育機関(公立はこだて未来大学、函館大学、函館工業高等専門学校、北海道教育大学函館校)と連携し、オンデマンド形式を主とする 12 科目の選択科目を開講。ひとつの大学だけでは学べない幅広い視野や知識の修得機会の創出を図るとともに、柔軟な受講機会を実現し、学修者本位のカリキュラムを構築した。令和 7 年度の選択科目受講者数は延べ 138 名、クレジット取得者は延べ 89 名となった。

また、受講管理システムおよびカリキュラム履修ガイドを整備し、必修科目と合わせた CREEN 人材育成カリキュラムの教育体制を整えたほか、指定したクレジットを取得した者に対して授与するディプロマの整備を行った。今後も、講義コンテンツ数や内容のさらなる充実化を見据え、さらなる魅力度アップを図る。



選別作業では、孵化場で親魚に用いる魚、加工に用いられる魚、サケ以外の魚に分けられる。



水につけることで精子を活性化して卵と受精させる。



生きている受精卵は透明で、発眼卵には黒い点(眼)が観察される。

選択科目のオンデマンド教材例(サケマス養殖生産学)



## <令和7年度 選択科目一覧>

| 開講時期 | 養殖・水産加工                                                 | 観光・食産業                                                 | 物流革新・海外輸出・Withコロナ | AI&IoT                   | 地域資源活用                   | 公共政策論                   | マーケティング                 |
|------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 前期   | ▲水産物と栄養<br>(1cr/北大提供)<br>(大学院)<br>★水産物栄養学特論<br>1cr/北大提供 | 地域経済論Ⅰ<br>(2cr/函大提供)                                   | 流通論<br>(2cr/函大提供) | ロボットの科学技術<br>(2cr/未来大提供) |                          |                         |                         |
| 後期   | 水産食品安全学<br>(1cr/北大提供)                                   | ▲観光と食産業<br>(1cr/北大提供)<br>(大学院)<br>★観光食産業序論<br>1cr/北大提供 |                   | 数値解析学<br>(1cr/函館高专提供)    | 地球環境と水産養殖<br>(1cr/北大提供)  | 社会と経済の把握<br>(2cr/未来大提供) | マーケティング総論<br>(2cr/函大提供) |
| 通期   | サケマス養殖生産学<br>(1cr/北大提供)                                 |                                                        |                   |                          | 国際地域リーダー論<br>(1cr/教育大提供) |                         |                         |

※ 表中の「▲」は学部生向け、「★」は北海道大学の大学院生向けであり、同一の科目。

### 5.1.4 ディプロマ授与式

本格実施初年度となる令和7年度は、北海道大学3名、函館大学3名がカリキュラムを修了し、授与式にてディプロマと記念品(CREEN ピンバッジ)が授与された。授与式は「函館マリカルチャープロジェクト」の函館地域水産業創生推進会議の後におこなわれ、函館市長や北海道大学総長、商工会議所会頭をはじめ事業関係者が同席し修了を祝った。



授与式の様子



修了生代表スピーチの様子



前列左から北海道大学大学院水産科学研究院地域水産業共創センター 都木センター長、北海道大学 資金総長、北海道大学大学院水産科学院 木村さん、同 佐々木さん、函館大学 宮原さん、函館市 大泉市長、函館国際水産・海洋都市推進機構 嵯峨機構長、後列左から北海道大学大学院水産科学研究院地域水産業共創センター 細川副センター長、函館地域産業振興財団 安井副理事長、函館商工会議所 久保会頭、函館大学 小西さん、函館大学 畠山さん、北海道大学水産学部 堀田さん、函館市内漁業協同組合長連絡協議会 坂田会長、北海道大学大学院水産科学研究院地域水産業共創センター 福田教授



### 5.1.5 カリキュラムの改良(意見交換会)

必修科目 2 科目の各回オンラインアンケート、科目終了後のオンラインアンケートに加えて、受講生の生の声を聞くためカリキュラム修了予定者(令和 8 年 1 月時点)とスポット参加者(長崎大学学生)を対象に意見交換会を実施した。事前のヒアリング(アンケート)を経て、広報・告知、実施時期や回数といった運営面での改善を得たほか、参加の動機、学びの意義付けや成果、進路選択への影響などについて聞き取りを行った。

これらの振り返りデータをもとに令和 8 年度の必修科目の内容等を再検討し、カリキュラムの改良を図った。

## 5.2 函館をもっと良いまちに！プロジェクト

CREEN 人材育成プロジェクトの一環として、函館市内の教育分野が異なる高等教育機関に所属する学生が主体となり、函館の水産業を中心とした課題発掘・対策の企画実施を推進する「函館をもっと良いまちに！プロジェクト」を令和 5 年度より実施継続している。その一環として、CREEN 人材育成カリキュラムの受講前の動機付け、かつ受講後の実践の場を提供することを目的として、令和 5 年 6 月に「学生団体 ISARIBI with」を発足させた。

令和 7 年度は地域活性化の活動として主に 4 つのプロジェクトを実施し、地域課題解決に向けた取り組みを通して、地元企業・団体との積極的なネットワークの構築を図った。また「学生団体 ISARIBI with」での経験を活かし、令和 7 年度に 2 名の起業学生(デジタル名刺サービス、他 1 件)、2 名の地元就職者を輩出し、団体メンバーが令和 8 年度函館市基本構想審議会委員に就任した。

共創センターでは、令和 8 年度も引き続き活動を支援し、相互連携を強化していく。

<学生団体 ISARIBI with 令和 7 年度の活動> 令和 7 年度 登録学生数 合計 59 名

・北海道大学大学院水産科学研究院:8 名 ・函館大学:4 名 ・函館工業高等専門学校:8 名

・公立はこだて未来大学:6 名 ・北海道教育大学函館校:33 名



### 5.3 小中高生への支援

「地域連携型オープンキャンパス(12校約325名)」、「リケジョ・カフェ」、「北海道函館中部高等学校との連携協定」など、養殖産業を中心とした水産学・海洋学等に関する出前授業や学校訪問対応など、地域の教育機関との連携強化を図り、地元の高校生等に対して水産業や大学の魅力の訴求や将来像を考えるきっかけづくりの機会提供を行った。令和8年度も小中高生へ対する水産・海洋教育に引き続き貢献して、水産・海洋都市函館の地域振興につなげる。

#### 5.3.1 地域連携型オープンキャンパス

地元の中高校生を対象に、研究室見学や実験の一部を体験できる地域連携型オープンキャンパスを実施。大学生と高校生の交流を深め、最先端研究に触れ、地元大学への進学を促すことを目的に令和5年度から継続実施しており、令和7年度は、北海道函館中部高等学校の生徒30名が研究現場を体験した。



訪問の様子

#### 5.3.2 リケジョ・カフェ

函館市内の高校と協力し令和4年度から開催しており、地元の女子高生が最先端の研究実践に触れ、研究への心構えやモチベーションを高めると同時に、研究者として活躍するために必要な心構えを伝える等、水産業について学術的な視点から地元女子中高生に訴求する取組を継続中である。令和7年度は12月に北海道函館中部高等学校で実施し、同校の生徒の他、渡島・檜山管内の高校生を含めた45名が、大学院水産科学研究院 石原千秋助教による「何の因果かヤドカリと歩む人生です」に耳を傾けた。



#### 5.3.3 北海道函館中部高等学校との連携協定締結

水産科学院は令和7年6月18日(水)、連携協定を締結。双方の交流・連携を通じて、「科学的リテラシーを備え、地域及び世界をイノベートする科学技術人材の育成」に取り組むとともに、中部高校の海洋・水産科学への視野を広げ、学習意欲や進路に対する意識を高めること、水産科学研究院が進める CREEN 人材育成事業等の「地域水産業の活性化をめざした教育プログラム」への中部高校の参加・協力体制を構築していく。





○北海道函館中部高等学校での「Science English Café」に協力

令和 8 年 3 月 10 日(火)に中部高校を会場に開催された「Science English Café」に協力、参加した生徒たちは水産科学研究院に通う留学生らと共に、クエン酸とビタミン C の中和滴定の実験を All in English で挑んだ。



#### 5.3.4 函館市海洋 STEAM 教育との連携

共創センターでは、函館市企画部、函館市内小学校と協働して、函館が海に面した地域であるという特色を生かし、海に関する関心を高めるとともに海洋リテラシーの向上を目的に、海洋 STEAM 教育をはじめ小中学生向けの地域連携教育を推進中。

特に、大学院生が自身の研究を紹介しながら、小中学生向けの海洋 STEAM 教育の一部を担う出前授業の 1 コマを担う実施方式で進めており、教えることで学ぶという学生の学修効果も織り込んでいる。

##### <実施一覧>

| 学校名・プログラム                         | 参加者数 | 対象                | 内容                                                         |
|-----------------------------------|------|-------------------|------------------------------------------------------------|
| 北海道木古内中学校・探究の時間・課題研究指導・アドバイス      | 19名  | 中学生（3年生）相手のSDGs教育 | 中学生に対して、SDGsに関連した藻場研究を紹介、アルギン酸実験を体験してもらう出前授業を提供            |
| 北海道函館市高丘小学校・探究の時間・海や水圏生物に関する研究紹介  | 66名  | 小学生（1・5年生）相手の科学教育 | 小学生に対して、SDGsに関連した海の研究を紹介、鯨の骨などに触れる体験をしてもらう出前授業を提供          |
| 北海道木古内中学校・探究の時間・課題研究指導・アドバイス      | 15名  | 中学生（3年生）相手のSDGs教育 | 中学生に対して、SDGsに関連した藻場研究を紹介、コンブとブルーカーボンについて紹介する出前授業を提供        |
| 奥尻高校でのドローン活用実習プログラムの提供            | 4名   | 高校1年生～3年生のSTEAM教育 | 高校生に対して、「水中空中ドローンの活用・実践の教育プログラム」を複数回高校を訪問し、大学生・大学院生と共に提供   |
| 北海道函館市南茅部小学校・探究の時間・海や水圏生物に関する研究紹介 | 21名  | 小学生（4年生）相手の科学教育   | 小学生に対して、SDGsに関連した藻場研究を紹介、コンブに触れる学習体験を提供                    |
| 奥尻高校・科学教育ツアー（校外学習受け入れ）            | 22名  | 高校生（1年生）相手の科学教育   | 高校生に対して、SDGsに関連した研究紹介、グループごとのプレゼンテーション体験、構内見学をしてもらう出前授業を提供 |
| 北海道函館市あさひ小学校・探究の時間・海や水圏生物に関する研究紹介 | 43名  | 小学生（5・6年生）相手の科学教育 | 小学生に対して、SDGsに関連した海の研究を紹介、鯨の骨などに触れる体験をしてもらう出前授業を提供          |
| 北海道函館市銭亀沢小学校・探究の時間・海や水圏生物に関する研究紹介 | 14名  | 小学生（4年生）相手の科学教育   | 小学生に対して、SDGsに関連した藻場研究を紹介、コンブに触れる体験をしてもらう出前授業を提供            |
| 函館市立桔梗中学校・科学教育ツアー（校外学習受け入れ）       | 40名  | 中学生（2年生）相手の科学教育   | 中学生に対して、SDGsに関連した藻場研究を紹介、アルギン酸実験を体験、構内見学をしてもらう学修体験を提供      |





木古内中学校での出前授業



南茅部小学校での出前授業



あさひ小学校での出前授業

## 5.4 LASBOS との連携

オンライン教材を提供し、早期に学生の研究指向性を高め、海のトップサイエンティストとなる人材を育成する「海のトップサイエンティストの早期発掘と育成」を目指した教育プログラム(北海道大学機能強化促進事業 2019 - 2023)をきっかけに設立した教育プラットフォーム LASBOS Moodle を活用し、CREEN 人材育成カリキュラムのオンデマンド教材管理、受講者・受講状況・成績の管理を行えるよう、整備・運用している。この他、LASBOSのオンラインコンテンツ・LASBOSカードを小中高生、地域、企業等を対象とした幅広い研究教育情報の発信に活用している。令和 8 年度も LASBOSを活用し、各連携事業の効果の最大化をはかる。



CREEN 人材育成カリキュラムのシラバス確認や申込等が可能なポータルページ

#### 5.4.1 アウトリーチ

LASBOS Moodle、LASBOS YouTube、LASBOS カードからなる LASBOS コンテンツを用いて、水産科学研究院、共創センターの PR、および海や水産に関する教育研究情報のアウトリーチを継続して実施している。

##### LASBOS カード配布場所(常設展示)

函館市内：函館市国際水産・海洋総合研究センター、函館市北洋資料館、函館市北方民族資料館、函館市文学館、朝市(一時的に試験配布)、北海道大学函館キャンパス

札幌キャンパス：北図書館、高等教育推進機構(学生のみ)、総合博物館、環境科学院、附属図書、インフォメーションセンター



LASBOS カード

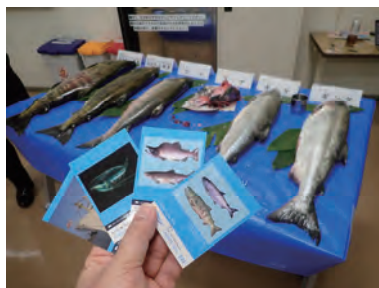
##### LASBOS カード・クリアファイルを配布した事業・学校訪問等

学校訪問(函館中部高等学校、南茅部高等学校、奥尻高等学校、砂原中学校、港中学校、桔梗中学校、南茅部中学校、木古内中学校、七飯町老人大学)、学校説明会・出前講義・進学説明会等(函館ラ・サール高等学校、札幌第一高等学校、木古内中学校、森高等学校、砂原中学校、南茅部小学校、銭亀沢小学校、帯広柏葉高等学校、釧路湖陵高等学校、札幌東高等学校、市立函館高等学校、函館中部高等学校、あさひ小学校、高丘小学校)、CREEN 人材育成カリキュラム(水産学演習・地域創生演習)、1 年生向けガイダンス(札幌キャンパス)、オープンキャンパス、学生団体「Co-wave ～学生と地域がつくる、新しい波～」ISARIBI with 報告会(令和 7 年 11 月)、北大祭、北水祭、北水祭実行委員会による七夕企画、マリンフェスティバル(共創センター展示)、札幌市消費者協会と北海道定置漁業協会の共催「食育」イベント「秋さけの“ふしぎ”にせまる ～さけから学ぶ、命のつながり～」、北水ドローン研究会「木古内ドローン体験会」、産学連携学会第 23 回大会函館大会、CEATEC 2025、ビジネス EXPO2025

また、これらのコンテンツを主体的に利用する事例が見られ始め、令和 7 年度は「秋さけの“ふしぎ”にせまる ～さけから学ぶ、命のつながり～」、あさひ小学校での大学院生による教材利用、北水祭実行委員会、水産学部教務担当(学校説明会や進学説明会で利用)、イベントや授業などで活用いただいている。



「函館マリンフェスティバル 2025」



札幌市消費者協会と北海道定置漁業協会の共催「食育」イベント



産学連携学会第 23 回大会函館大会

## 5.5 その他

起業を検討している学生に対して構想や計画をヒアリングし、地域の企業や自治体とつなげる支援を実施した。

令和 7 年度においては、「養殖コンブの大量廃棄される部分の再利用方法の提案」により起業を目指す学生(北海道大学水産科学研究院修士 2 年)に対して、フィールドとする鹿部町や水産経済課ならびに北海道立総合研究機構などの関係者との橋渡しや羊による実証実験事業の調整、補助金申請の支援などを行った。

共創センターがピッチ支援を行った北海道大学大学院水産科学研究院の学生チーム「KITANOKO」が、『道南ビジネスアイデアコンテスト 2026』の U26 部門で最優秀賞を受賞した。受賞提案「昆布から肉！？～函館新名物、昆布代替肉～」は、規格外で廃棄される函館真昆布の未利用部位を有効活用し、ご当地昆布肉バーガーを開発・販売するプロジェクトで、昆布の廃棄物削減という環境保全と、観光地価格で外貨を獲得し地域漁業へ経済還元する付加価値創出を同時に叶える、新しい地域循環型ビジネスモデルである。



道南ビジネスアイデアコンテスト 2026 最終審査会(令和 8 年 3 月 28 日(土))の様子





## 6.その他の活動

### 6.1 産学・地域協働推進機構及び統合 URA 本部との連携

共創センターで関わる、企業との学術コンサルティングや秘密保持契約の締結、知財の取り扱いなどについて、北海道大学産学・地域協働推進機構（以下「産地機構」という。）や統合 URA (University Research Administrator)本部と情報交換を行い、水産に関する問い合わせ対応や函館地域での連携のほか、研究費情報の共有などを継続している。

### 6.2 産学連携学会第23回大会函館大会開催

令和 7 年 6 月 19 日(木)、20 日(金)、産学連携学会第 23 回大会函館大会を函館アリーナ(サブアリーナ等)で開催した。産学連携学会・北海道大学大学院水産科学研究院が主催・共催となった今大会(事務局：共創センター)では、「地域幸福度(Well-being)を向上させる社会の実現に向けた産学官連携体制の構築」をメインテーマとし、循環型社会や産学官連携による地域人材と産業の創出の可能性などをキーワードとした基調講演やシンポジウムを開催したほか、2 日目(最終日)には、一般の方も参加可能な公開オーガナイズドセッション「函館マリカルチャープロジェクト成果報告会」を開催した。学会員やプロジェクト関係者、一般の方々など 400 人を超える参加があり、例年以上の参加規模となった。

研究発表件数は、一般講演 98 件、ポスター発表 13 件、オーガナイズドセッション 8 件が設定され、2 日間ともすべての会場で終日プログラムが行われ、地域における今後の地域産業創出や人材育成のあり方などについて活発な議論が行われた。



会場の様子



シンポジウムの様子



ポスターセッションの様子



企業ブースの様子

### 6.3 キングサーモン試食会

#### ○養殖キングサーモン試食会の実施

令和4年生まれの人工種苗による漁港内海面養殖試験を終え、6月30日(金)に初水揚げを行った、完全養殖キングサーモンの試食会が7月4日(金)、プロジェクト関係者により海洋総合センターにおいて実施された。



－ キングサーモン弁当 －



－ 寛金北大総長の講評 －



－ 試食の様子 －



－ 大泉函館市長のコメント －



－ 藤澤参事官補佐の講評 －



－ 藤本部会長の説明 －

#### ○養殖キングサーモンの学内試食会の実施

プロジェクト関係者による試食会に引き続き、7月18日(金)、研究の現場に関わってきた関係者や学生、学内関係者による試食会も実施された。調理は研究に関わってきた大学院水産科学研究院 藤本貴史教授をはじめ、教職員ならびに研究室の学生らが行い、刺身、寿司、フライ、鍋などが振る舞われた。

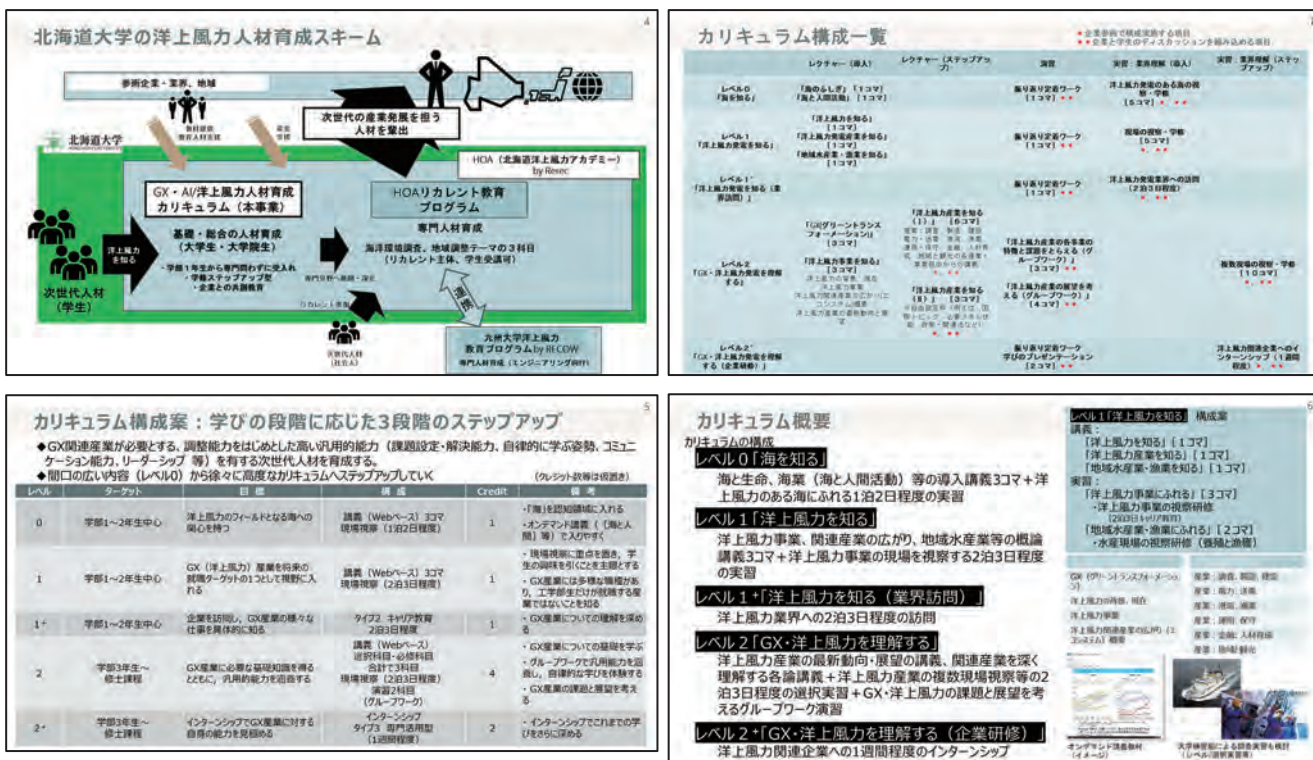


学内試食会の様子



## 6.4 GX・AI/洋上風力人材育成カリキュラム事業

共創センターは、株式会社北洋銀行、北海道電力株式会社と協力して、大学生向けの洋上風力人材育成カリキュラムの新設を開始した。北海道における GX・AI/洋上風力産業の持続的展開のため、関連する産業及び地域・社会に必要とされる人材の育成と確保のための事業を、産業界と北海道大学の共創のもとで進めていく。



カリキュラム検討資料



【参考】記者発表の様子（2026年7月15日（水））



## 6.5 ホームページ掲載実績、報道実績

### 6.5.1 ホームページ掲載実績

共創センターのホームページへの掲載実績として、令和7年度は89件となった。

#### <HP 掲出実績(一部抜粋)>



### 6.5.2 報道実績

共創センターの活動等(函館マリカルチャープロジェクトに関するものを含む)について、報道で取り上げられたもの、プレスリリースしたものなど、延べ 28 回の報道実績があった。中でも、「1. 産学官連携事業企画・運営の支援」で支援しているキングサーモン完全養殖に関するものが 10 件と多い他、次いで学生団体 ISARIBI with の活動に関する記事が 6 件だった。また、令和7年度はテレビ放送が 7 件あり、キングサーモン完全養殖をはじめメディアからの注目度が高かった。

#### <報道実績(一部抜粋)>



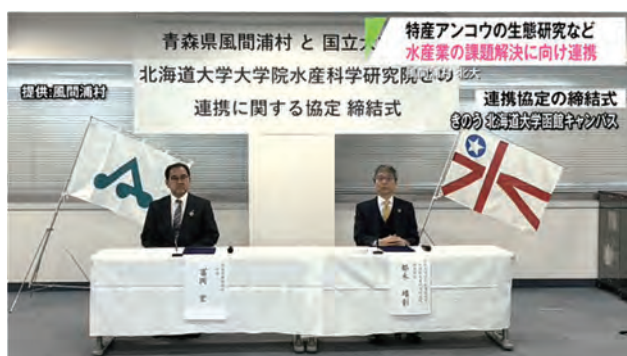
令和7年6月18日(水) NHK ほっとニュース函館



令和7年7月4日(金) NHK ほっとニュース函館



令和7年7月4日(金) HBC 今日ドキッ!



令和8年3月4日(水) RAB 青森放送  
1550 ニュースレーダーWish







北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY

大学院水産科学研究院  
大学院水産科学院  
水産学部

---

北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部  
地域水産業共創センター  
令和7年度事業報告書

発行 令和8年9月

発行者 北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部 地域水産業共創センター  
〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1 北海道大学 函館キャンパス  
Tel : 0138-40-5039 E-mail : kyouso@fish.hokudai.ac.jp